

自立活動の授業

**定型文（フレーズ）を使用したコミュニケーション指導**

1. 日時 令和7年11月21日（金） 第4時限（11:20 ～ 11:55）
2. 場所 中学部第3学年 2組教室
3. 学部・学年・組 中学部 第3学年 第2グループ 6人
4. 研究内容 対人関係に課題のある学習指導要領小学部2段階の生徒への、定型文を使用したコミュニケーション指導
- 【研究討議のテーマ】 相手に関心をもつことが難しい生徒同士のコミュニケーション場面をどのように設定できるか

5. 自立活動の区分と目標

- 【6（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること／3（4）集団への参加の基礎に関すること】
- ・協同してゲームに取り組み、動きを合わせることができるようにする。
  - ・身近な友だちや教員とのやりとりを増やし、相手に注目を向けることができるようにする。
  - ・挨拶する場面等を通して、相手を見たり手を合わせたりできるようにする。
- 【6（2）言語の受容と表出に関すること】
- ・定型化された文を活用して、タイミング良く相手に伝えることができるようにする。

6. 生徒観【略】

7. 教材観（取り組み内容・6区分・DJCによる指導領域）

学習の流れ	区分	DJC *	内容
紹介しよう 質問フレーズを使って、会話に挑戦する	6（2）	6－小1 10－小2	定型文を活用した会話に取り組む。身近な事柄についてお互いに好きなものの紹介をし合い、楽しみながら取り組めるようにする。画面に質問と返答の選択肢を提示し、生徒は、順番に質問（定型文）をする・答えを選んで返答する。 目標（ペアに応じて設定）：①相手の顔を見て、スムーズに会話する。②相手を意識して話す。③ゆっくりと定型文を読む。 「いいね」「素敵だね」といった相手の紹介に対するコメント札を掲げ、会話のふわふわ言葉の語彙を養う。
一緒に運ぼう 言葉を伝える 動きを合わせる	6（1） 6（2）	9－小1	2人1組の共同動作（道具を使用した紙コップ移動）を通して、相手に注目し、タイミングや動きを合わせることをねらいとしている。 ペア同士で挨拶をする場面を設定し、互いに手を合わせることで相手を意識し、相手を見ることができるようになる。ペア同士の動きを合わせる合図として、「○色の○番いくよー。せーの」のかけ声（定型文）を使用する。紙コップに付いているシールの色と数字をもとに、どの紙コップを運ぶのかを確実に相手に伝えられるようにした。

一緒に遊ぼう ペアで遊ぶ	6(1) 6(2)	9-小1	他者と一緒に遊べる力を育むことをねらいとしている。物を共有しながら1人ずつ順番に取り組む遊び(ぱくぱくさん)、2人でタイミングや動きを合わせる遊び(魚つり、つみき運び)の中から好きな活動を選んで取り組む。 2人で一緒に取り組む課題では、「一緒に運ぼう」と同じねらいの活動を用意し、相手に注意を向けるだけでなく、タイミングを合わせる「せーの」のかけ声が、自分に言えるように言葉かけをする。1人で取り組む課題も、同じ活動を共有することで、相手を意識し、動きに注目できるようにする。
-----------------	--------------	------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

＊【別紙】DJC コミュニケーション指導マトリックス② 参照

## 8. 指導観

見通しがあると安心する生徒が多いため、授業の最初に流れを視覚的に提示し、確認してから始める。授業の年間スケジュールにおいても、同じような授業構成になるように留意しながら、少しずつ内容を変更調整するようにしている。また授業全体を通して、繰り返しやパターン化された活動になるように留意する。

本単元での「一緒に運ぼう」では、相手に注目し、タイミングや動きを合わせるために「せーの」のかけ声を使用する。かけ声の定着をめざして、事前にかけ声の練習を繰り返し、活動中にかけ声を忘れている生徒には、「何て言う？」と言葉をかけるようにする。

また手を合わせて次の人に交代したり、挨拶をしたりする場面を設定している。手を合わせることに不安を感じる様子が見られた場合は、教員が一緒に手を添えてペア相手の顔や名前を一緒に確認し合う機会を設けることで、生徒同士が安心してつながりをもてるように支援する。自主的な発語を増やすため、定型文は短い同じフレーズを繰り返す形にし、コミュニケーション指導としては、安心して言葉でのやり取りができたという経験を通し「もっと話したい」「一緒にやりたい」という生徒の気持ちが芽生えるように、楽しい雰囲気作りができるように配慮していきたい。

## 9. 生徒の実態とそれぞれの目標 【略】

## 10. 本時の展開

### (1) 本時で扱う教材・教具

- ・ホワイトボード ・タブレット端末 ・モニター ・順番表 ・台詞表 ・かご ・紙コップ
- ・ゴム付ひも ・各種ボール ・緩衝材 ・フェルトボール ・魚、釣り竿 ・つみき
- ・つみきを押す棒

### (2) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等
3分	【導入】 あいさつをし、流れの説明を聞く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつでは、見る方向、姿勢に気をつけるように伝える。</li> <li>・見通しがもてるように、順番に当てながら活動内容を確認する。</li> </ul>

10分	<b>【展開①：紹介しよう】</b> 質問フレーズの定型文を使って生徒同士で会話のやり取りをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの会話の速さに合わせて定型文を提示する。</li> <li>・質問に答えやすいように、身近な題材を用意する。</li> <li>・それぞれのペアに合わせて、課題を画面に提示する。</li> <li>・交代する相手が分からないときは、再度相手の名前と場所を確認する。</li> <li>・手本になるように、会話が一番スムーズなペアを1番最初に設定する。</li> </ul>
10分	<b>【展開②：一緒に運ぼう】</b> かけ声に合わせて髪ゴムのついたひもを引っ張り、紙コップを中に入れて運ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機の生徒が活動の様子を見られるように、机の向きを変える。</li> <li>・紙コップを運ぶ距離を少しずつ伸ばし、紙コップを机全体に広げる。</li> <li>・自分の番を意識しやすいように、ペアごとで名前を呼ぶ。</li> <li>・終わるごとに、それぞれのペアの良かった点を紹介する。</li> </ul>
10分	<b>【展開③：一緒に遊ぼう】</b> ぱくぱくさん、つみき運び、魚つりからやりたい活動を選び、一緒に活動をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に取り組む活動を見せながら、やりたい活動を一齐に質問する。選べなかった場合は、個別で質問する。</li> <li>・ペア同士が意識できるように順番に呼び、他のペアが意識できるように同じ机で一緒に取り組めるように配置する。</li> </ul>
2分	<b>【まとめ】</b> 教員の話聞き、あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を振り返り、達成できたことや良かったところを伝える。</li> <li>・授業終了後の動きを確認してから、挨拶をする。</li> </ul>

(3) 教室配置等（正面を上にして、生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

